

Godox 神牛

X Pro C

TTLワイヤレスフラッシュトリガー  
TTL Wireless Flash Trigger

**深圳市神牛摄影器材有限公司**  
**GODOX Photo Equipment Co., Ltd.**

所在地/Add: 深セン市宝安区福海街道塘尾社区耀川工業区厂房2棟1階~4階、4棟1階~4階  
1st to 4th Floor, Building 2/ 1st to 4th Floor, Building 4, Yaochuan Industrial Zone,  
Tangwei Community, Fuhai Street, Bao'an District, Shenzhen 518103, China  
電話 /Tel: +86-755-29609320(8062) ファックス /Fax: +86-755-25723423  
電子メール/E-mail: godox@godox.com  
705-XPRZC0-07 Made In China

FC CE RoHS  

**Instruction Manual**  
**取扱説明書**



# 目次

- 02 はじめに
  - 02 警告
  - 03 部品
    - 本体
    - LCDディスプレイ
  - 05 電池
    - 電池の取り付け
    - 電池残量の表示
  - 05 フラッシュトリガーの使い方
    - ワイヤレスシンク口によるセットアップフラッシュのトリガー
    - ワイヤレスシンク口による屋外撮影フラッシュのトリガー
    - ワイヤレスシンク口によるオリジナルフラッシュのトリガー
    - ワイヤレスシンク口によるスタジオフラッシュのトリガー
    - ワイヤレスによるカメラシャッターのトリガー
    - 2.5mmのシンクポートによるフラッシュのトリガー
  - 10 フラッシュトリガーの設定
    - 電源スイッチ
    - 自動に節電モードに入ります
    - AF補助フォーカシングランプスイッチ
    - チャンネル設定
- ワイヤレスIDの設定
  - モード設定
  - 拡大機能
  - 出力値設定
  - 露出補正の設定
  - ストロボパラメーター(出力、回数、周波数)の設定
  - モデリングランプの設定
  - ZOOM値の設定
  - シャッターシンク口の設定
  - ブザーの設定
  - シンク口ソケットの設定
  - TCM機能
  - SHOOT機能の設定
  - C.Fnカスタム機能
- 28 対応フラッシュのタイプ
  - 29 対応カメラリスト
  - 20 仕様
  - 21 出荷時設定へのリセット
  - 21 ファームウェアアップグレード
  - 22 注意事項
  - 22 フラッシュトリガーの保守

## X はじめに

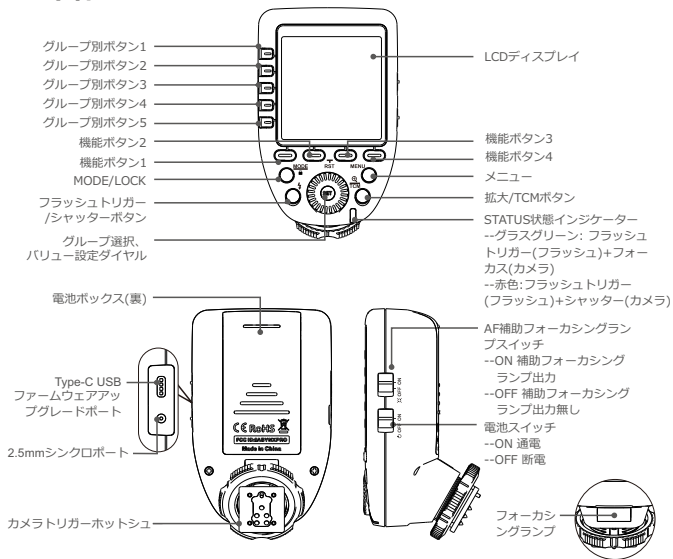
この度はXProCワイヤレスフラッシュトリガーをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。本フラッシュトリガーはCanonカメラ制御神牛フラッシュに適用し、神牛ワイヤレスXシステムをサポートするセットトップライト、屋外撮影ライト、スタジオフラッシュに使われ、また、X1R-Cと組み合わせてCanonオリジナルフラッシュをサポートできます。マルチチャンネルでコントロールし、信号が穏やかであり、感度が高く、カメラマンの配光に便利し、各種撮影ニーズを満足できます。本トリガーはホットシューを装着するCanon EOSシリーズカメラに適用すると同時に、PCポートを有するカメラと接続して使用でき、E-TTL II フラッシュとハイスピードフラッシュをサポートし、最大フラッシュシンククロスピードが1/8000sに達しています。

\*：制限条件—カメラの最大シャッタースピードは1/8000sです。

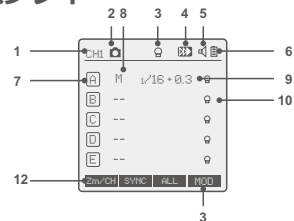
## ⚠ 警告

- ⚠ 自分勝手に本製品を分解しないでください。製品に故障が出た場合、本社または授權された専門家より
- ⚠ チェックし、メンテナンスします。乾燥を保ってください。濡れた手で製品に触れないでください。また、製品を水に浸したり、雨の中に暴露したりしないでください。
- ⚠ 子供に本製品を触れさせないでください。
- ⚠ 燃焼しやすく爆発しやすい環境で使用しないでください。このような場合、関係警告マークに注意してください。50℃を超えた高温環境で置かないでください。
- ⚠ いかなる故障が起こった場合、直ちにトリガーの電源を切ってください。
- ⚠ 電池使用時の注意事項は下記の通りです。  
本マニュアルに記載された電池だけを使うことができます。新しい電池と古い電池またはタイプの違った電池を混ぜて使わないでください。メーカーの提供した警告または指示を詳しく読んで遵守してください。  
電池を短絡させたり、電池を分解したりしないでください。  
電池を火の中に捨てたり、加熱したりしないでください。  
電池を装着する時に、電池の極性を間違わないでください。電池が切れると、液漏れしやすくなります。製品を損なわないため、長期間にわたって使わない時、または電池が切れた時に、電池を取り出してください。  
損なわれた電池中の液体が皮膚または衣服に触れた場合、直ちに大量な清水で洗い流してください。

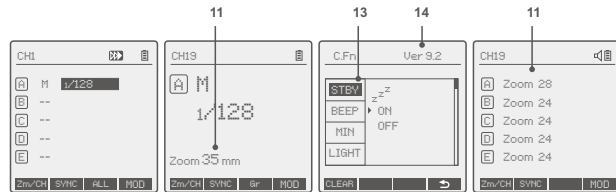
● 本体



● LCDディスプレイ



- 1.チャンネル(合計32個)
- 2.カメラへの接続
- 3.モデリングランプマスターコントロール
- 4.ハイスピード/後幕
- 5.音声
- 6.電池容量
- 7.グループ別
- 8.モード
- 9.出力
- 10.グループ別モデリングランプ
- 11.ZOOM値
- 12.機能ボタンに対応するアイコン
- 13.C.Fnメニュー
- 14.バージョン番号



- (1)マルチグループ表示
- (2)ワングループ表示
- (3)メニュー表示
- (4)マルチグループZOOM表示

## 電池

### ● 電池の取り付け

フラッシュトリガーの裏面にある電池ボックスのカバーを開け、電池ボックス内に指示された正極、負極によって、それぞれ2個のAA電池(別に購入する必要がある)を装着します。

### ● 電池残量の表示

使用時にLCDパネルにある電池アイコンをチェックするだけで、随時に電池残量を把握できます。

LCDパネル電池残量表示	意味
3グリッド	電池残量はまだ十分あります
2グリッド	電池容量は減り始めました。
1グリッド	電池残量は低くなりました。
フレーム	残量が僅かで、直ちに電池を交換してください。
点滅	< 2.5V電池容量がすぐ切れます(この時、電池を交換してください。そうしないと、距離が遠くなると、ミスフラッシュしたり、フラッシュしなかったりします)。

\* この電池残量表示はAAアルカリ乾電池だけに対応するものです。ニッケル水素電池は電圧が低めであり、このリストを参照しないでください。



## フラッシュトリガーの使い方

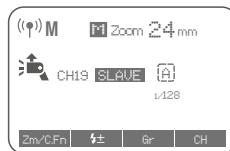
### ● ワイヤレスシンクロによるセットトップフラッシュのトリガー

使い方：TT685Cを例に取ります。

1. カメラの電源を切り、フラッシュトリガーをカメラホットシューのソケットに置き、フラッシュトリガーの電源スイッチとカメラの電源を入れます。
- 1.2 <Zm/CH> ボタンを長押ししてチャンネルを設定し、グループ、モードとパラメーターを設定します(詳しくは「フラッシュトリガーの設定」を参照)。

## フラッシュトリガーの使い方

- 1.3 セットトップフラッシュの電源を入れ、<Zm>ワイヤレス設定ボタンを押し、パネルに<M>ワイヤレスアイコンと<SLAVE>スレーブユニットアイコンを表示させ、<CH>チャンネル設定ボタンを押し、フラッシュトリガーと同じチャンネルを設定し、<Gr>グループ設定ボタンを押し、フラッシュトリガーと同じグループを設定します(注：他のタイプのセットトップフラッシュ設定は対応するセットトップフラッシュの取扱説明書を参照してください)。
- 1.4 カメラのシャッターを押すだけでトリガーでき、同時にフラッシュトリガーの「状態インジケーター」が赤色に点滅します。



### ● ワイヤレスシンクロによる屋外撮影フラッシュのトリガー

使い方：AD600Bを例に取ります。

- 2.1 カメラの電源を切り、フラッシュトリガーをカメラホットシューソケットに置き、フラッシュトリガーの電源スイッチとカメラの電源を入れます。
- 2.2 <Zm/CH> ボタンを長押ししてチャンネルを設定し、グループ、モードとパラメーターを設定します(フラッシュトリガーの詳細説明を参照してください)。
- 2.3 屋外撮影フラッシュ電源を入れ、<Zm> ワイヤレス設定ボタンを押し、パネルに<M>ワイヤレスアイコンを表示させ、<GR/CH>グループチャンネル設定ボタンを長押しして、フラッシュトリガーと同じチャンネルを設定し、<GR/CH>グループ設定ボタンを押して、フラッシュトリガーと同じグループを設定します(注：他のタイプの屋外撮影フラッシュ設定は対応する屋外撮影フラッシュの取扱説明書を参照してください)。
- 2.4 カメラのシャッターを押すだけでトリガーでき、同時にフラッシュトリガーの「状態インジケーター」が赤色に点滅します。



## X フラッシュトリガーの使い方

### ● ワイヤレスシンクロによるオリジナルフラッシュのトリガー

使い方：600EX-RTを例に取ります。

**3.1** カメラの電源を切り、フラッシュトリガーをカメラホットシューソケットに置き、フラッシュトリガーの電源スイッチとカメラの電源を入れます。

**3.2** <Zm/CH>ボタン設定チャンネルを長押しして、グループ、モードとパラメーターを設定します(フラッシュトリガーを設定する詳細説明を参照してください)。

**3.3** オリジナルセットトップフラッシュをレシーバ(X1R-C)に置き、レシーバで<CH>チャンネル設定ボタンを押してフラッシュトリガーと同じチャンネルを設定し、<Gr>グループ設定ボタンを押してフラッシュトリガーと同じグループを設定します(注：オリジナルフラッシュの設定は対応するオリジナルセットトップフラッシュの取扱説明書を参照してください)。

**3.4** カメラのシャッターを押すだけでトリガーでき、同時にセットトップランプとトリガーの「状態インジケーター」が赤色に点滅します。

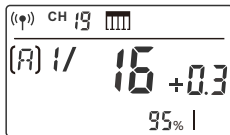


### ● ワイヤレスシンクロによるスタジオフラッシュのトリガー

使い方：GS400IIを例に取ります。

**4.1** カメラの電源を切り、フラッシュトリガーをカメラホットシューソケットに置き、フラッシュトリガーの電源スイッチとカメラの電源を入れます。

**4.2** <Zm/CH>ボタン設定チャンネルを長押しして、グループ、モードとパラメーターを設定します(フラッシュトリガーを設定する詳細説明を参照してください)。



## X フラッシュトリガーの使い方

**4.3** スタジオフラッシュを電源に接続し、電源スイッチをONにし、同時に<GR/CH>と<S1/S2>ボタンを押しながらパネルに<(P)> ワイヤレスアイコンを表示させ、<GR/CH>グループチャンネル設定ボタンを長押ししてフラッシュトリガーと同じチャンネルを設定し、<GR/CH>グループチャンネル設定ボタンを押してフラッシュトリガーと同じグループを設定します(注：他のタイプのスタジオフラッシュの設定は対応するスタジオフラッシュの取扱説明書を参照してください)。

**4.4** カメラのシャッターを押すだけでトリガーでき、同時にスタジオランプとトリガーの「状態インジケーター」が赤色に点滅します。

注：スタジオフラッシュの最低出力は1/32であり、フラッシュトリガーの出力を設定する時に、 $\geq 1/32$ の数値を設定すべきです。スタジオフラッシュにはTTLとストロボ機能はないため、フラッシュトリガーを設定する時に、Mモードを選択してからスタジオフラッシュをトリガーできます。

### ● ワイヤレスによるカメラシャッターのトリガー

使い方：

**5.1** カメラの電源を切り、「カメラリモコンケーブル」を通して接続し、片端をカメラのシャッターソケットに差し込み、もう一端をレシーバ(X1R-C)の「シャッターポート」に差込、カメラとレシーバの電源をONにします。

**5.2** <Zm/CH>ボタンを長押ししてチャンネルを設定し、グループ、モードとパラメーターを設定します(フラッシュトリガーを設定する詳細説明を参照してください)。

**5.3** レシーバで<CH>チャンネル設定ボタンを押してフラッシュトリガーと同じチャンネルを設定し、<Gr>グループ設定ボタンを押してフラッシュトリガーと同じグループを設定します。

**5.4** <⚡>トリガーボタンを半押しして、フォーカスします。<TEST>トリガーボタンを押して撮影し、ボタンから手を離すまで状態インジケーターが赤色に点灯します。



## X フラッシュトリガーの使い方

### ● 2.5mmシンクロポートによるフラッシュのトリガー

使い方：

**6.1** レシーバ側の接続方式は「ワイヤレスシンクロでスタジオフラッシュのトリガー」と「ワイヤレスシンクロでカメラシャッターのトリガー」という節を参照してください。

**6.2** 正常方式でシャッターを押します。シンクロポート信号を使って発光をコントロールします。



## X フラッシュトリガーの設定

### ● 電源スイッチ

電源スイッチを「ON」にすると、電源を入れ、状態インジケータは表示しません。

注意：節電するため、長時間にわたって使わない場合、電源を切ってください。

### ● 自動に節電モードに入ります

1. トランスミッターを操作し終わってから90秒経つと、システムは自動に待機モードに入り、この時LCD表示は消灯します。

2. システムを呼び覚ましたい場合、いずれかのボタンを押すだけで良いです。CANON EOSカメラのホットシューに取り付けられた場合、カメラシャッターを半押ししてシステムを呼び覚ますこともできます。

注：節電モードに入りたくない場合、<MENU>ボタンを押して、カスタムメニューに入り、STBY設定をOFFにするだけで良いです。

### ● AF補助フォーカシングランプスイッチ

AF補助フォーカシングランプスイッチを“ON”にし、AFフォーカシング光線の出力を許可します。

ピントがなかなか合わない時、フォーカシングランプが自動に点灯します。ピントを合わせると、フォーカシングランプは自動に消灯します。

### ● チャンネルの設定

1. <Zm/CH>ボタンを長押しして、チャンネル値を選定できます。

2. ダイヤルを回して適切なチャンネル値を選択します。再度<SET>ボタンを押すと、カレントチャンネル値は選定されます。

3. フラッシュトリガーには全部で32チャンネルがあり、1～32チャンネルの間で切り替えることができます。使う前に必ずフラッシュトリガーとレシーバ側を同じチャンネルに設定しなければなりません。

### ● ワイヤレスIDの設定

干渉を避けるため、ワイヤレス伝送チャンネルを変更するほか、また、ワイヤレスID、マスターユニットとスレーブユニットワイヤレスIDを変更し、チャンネルを一致させてから、トリガーできます。

<MENU>ボタンを押してC.Fn ID1に入り、<SET>ボタンを押してOFFチャンネル拡張シャットダウンを選定し、01～99からいずれかを選択します。

## フラッシュトリガーの設定

### ● モードの設定

1. <MODE>ボタンを押すと、選択されたグループのモードは変更されます。
2. グループは5グループ(A-E)に設定された場合
  - 2.1 マルチグループ表示時に、<MODE>ボタンを押すと、マルチモードはMULTIモードに切り替えられます。グループによって、ボタンを選択して、カレントグループのMULTIモードを起動「ON」またはシャットダウン「-」に設定できます。
  - 2.2 マルチグループ表示時に、グループにボタンを選択するか、ワングループモード時に、<MODE>ボタンを押すと、カレントグループのモードはTTL/M/- という順に切り替えます。
3. グループを16グループ(0-F)に設定する時、マニュアルモードMだけがあります。
4. <MODE>ボタンを2秒長押しすると、パネルの下方に「LOCKED」が表示し、パネルがロックされたことを示します。この時にいかなるパラメーターを設定できません。再度、<MODE>ボタンを2秒長押しすると、ロックが解除されます。



### ● 拡大機能

マルチグループとシングルグループの切り替え：マルチグループモードでグループを選択してから、<TCM>ボタンを押すと、グループはワングループモードに拡大されます。再度<TCM>ボタンを押すと、マルチグループモードに戻ります。

## フラッシュトリガーの設定

### ● 出力値の設定

1. マルチグループ表示時に、Mモードで：
  - 1.1 グループボタンを押してグループを選択し、ダイヤルを回すと、そのパワー出力値はMin～1/1の間で0.1または0.3毎に変化します。<SET>ボタンを押すと、当該グループのパワー出力値を確定します。
  - 1.2 <ALL>ボタンを押してトータルグループパワー出力値を選択し、ダイヤルを回すと、そのパワー出力値はMin～1/1の間で0.1または0.3毎に変化します。再度<ALL>ボタンを押すと、当該グループのパワー出力値を確定します。
2. ワングループ表示時に、Mモードで：

直接にダイヤルを回すと、そのパワー出力値はMin～1/1の間で0.1または0.3毎に変化します。

注：MinはMまたはMultiモードで設定可能な最低出力値を指します。C.Fn-STEPの設定値によりそれぞれ1/128、1/256、1/128(0.1)と1/256(0.1)です。多くのセットトップランプの場合、サポートする最低出力は1/128または1/128(0.1)であり、1/256または1/256(0.1)に設定できません。神牛AD600Proなどの大出力スタジオランプと組み合わせると、最低出力を1/256または1/256(0.1)に調整できます。

### ● 露出補正の設定

1. マルチグループ表示時に、TTLモードで：
  - 1.1 グループボタンを押してグループを選択し、ダイヤルを回すと、そのFEC値は-3～3の間で0.3毎に変化します。<SET>ボタンを押すと、当該グループのFEC値を確定します。
  - 1.2 <ALL>ボタンを押してトータルグループFEC値を選択し、ダイヤルを回すと、そのFEC値は-3～3の間で0.3毎に変化します。再度<ALL>ボタンを押すと、トータルグループFEC値を確定します。
2. ワングループ表示時に、TTLモードで：

直接にダイヤルを回すと、そのFEC値は-3～3の間で0.3毎に変化します。

## X フラッシュトリガーの設定

### ● ストロボパラメーター（出力値、回数、周波数）の設定

1. ストロボモードにします(TTLとMアイコンはいずれも表示しません)。
2. 三行の表示内容はそれぞれパワー出力値、Times(発光回数)、Hz(発光周波数)です。
3. ダイヤルを回すと、そのパワー出力値はMin. ~ 1/4で整数値で変化します。
4. Timesボタンを押して発光回数を変えることができ、ダイヤルを回して設定値を変更できます。
5. Hzボタンを押して周波数を変えることができ、ダイヤルを回して設定値を変更できます。
6. このようにこの三つの設定値を設定し終わります。また、いずれかの項目を設定する時に<MODE>ボタンを押すと、設定状態から退出できます。点滅する項目はありません。
7. ストロボパラメーター設定サブメニューで点滅する項目はない時に、<MODE> ボタンを押すと、メインメニューに戻ります。

\*注意：発光回数は発光出力値と周波数に制限され、設定した発光回数はシステムに許容される上限を超えてはいけません。レシーバ側に伝送した回数は実際発光回数であり、カメラのシャッター設定とも関係があります。



## X フラッシュトリガーの設定

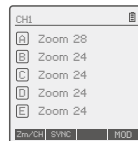
### ● モデリングランプの設定

1. マルチグループ表示時に<MOD>ボタンを押すと、マルチグループモデリングランプは起動するかシャットダウンします。
2. マルチグループ表示時にグループボタンを押してマルチグループまたはワングループを選択した場合、<MOD>ボタンを押すと、当該グループモデリングランプは起動するかシャットダウンします  
(注：目下ワングループモデリングランプスイッチ使用可能なスタジオフラッシュタイプはGSII、SKII、QSII、QDII、DEII、DPIIシリーズであり、屋外撮影ランプAD200、AD600の場合、アップグレードした後にこの機能を使うことができます。今後新しく開発したモデリングランプ付きのフラッシュは全部この機能を使うことができます)。



### ● ZOOM値の設定

1. <Zm/CH>を押すと、パネルにZOOM値が表示され、変更したいグループを選択して、ダイヤルを回し、ZOOM値はAUTO/24-200の中で変化し、設定したい値を選択してから、再度<Zm/CH>ボタンを押すと、メインメニューに戻ります。  
注：フラッシュのZOOMはAuto(A)モードに調整されてから応答します。

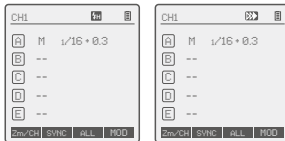




## フラッシュトリガーの設定

### シャッターシンクロの設定

1. **Fn** ハイスピードシンクロ：<SYNC>ボタンを押して、パネルに **Fn** を表示させます。
2. **Fn** 後継シャッターシンクロ：<SYNC>ボタンを押して、パネルに **Fn** を表示させます。



### ブザーの設定

<MENU>ボタンを押してC.Fn BEEPに入り、<SET>ボタンを押して、ONを選択すると、ブザーが起動し、OFFを選択すると、ブザーがシャットダウンします。再度<MENU>ボタンを押すと、メインメニューに戻ります。



### シンクロソケットの設定

1. <MENU>ボタンを押してC.Fn SYNCに入り、<SET>ボタンを押してINまたはOUTを選択します。再度<MENU>ボタンを押すと、メインメニューに戻ります。
  - 1.1 INを選択した時、このソケットはXProCをトリガーし、フラッシュを発光させます。
  - 1.2 OUTを選択した時、トリガー信号を出力し、他のリモコンとフラッシュをトリガーします。

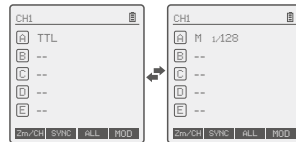


## フラッシュトリガーの設定

### TCM機能

TCM転換機能は神牛独自の機能です。  
TTL発光値はMモードにおけるパワー出力値に転換されます。

- 1.1 フラッシュトリガーをTTLモードに設定し、カメラと接続して、シャッターを押して撮影します。
- 1.2 <TCM>ボタンを長押しして、TTLモードにおける発光値はMモードにおけるパワー出力値(転換表示最低値は設定したMin値です)に転換します。
- 1.3 TCM機能と互換可能なフラッシュについて、C.Fnカスタム機能リストを参照してください。(注：自分の使っているフラッシュによって、カスタムTCM機能に入り、相応するタイプを選択してください。)



### SHOOT機能の設定

<MENU>ボタンを押してC.Fn SHOOTに入り、<SET>ボタンを押して1枚撮影または複数枚撮影を選択します。再度<MENU>ボタンを押すとメインメニューに戻ります。

**1枚撮影**：撮影する時に1枚撮影を選択すると、MとMultiモードにおいてマスターユニットはスレーブユニットだけにトリガー信号を送信します。1枚撮影は一人撮影の場合に適用し、節電のメリットを有しています。

**複数枚撮影**：撮影する時に複数枚撮影を選択すると、マスターユニットはパラメーターとトリガー信号をスレーブユニットに送信します。複数枚撮影は複数人の撮影に適用するが、パワー消費が速いです。

**APP**：撮影する時にトリガー信号（スマホAPPでフラッシュのパラメーターをコントロールします）だけを送信できます。




## × フラッシュトリガーの設定

### ● C.Fn : カスタム機能の設定

下記の表を参照して、カスタム機能を使って設定してください。

カスタム機能の符号	機能	設定符号	設定と説明
STBY	睡眠	ON	起動
		OFF	シャットダウン
BEEP	ブザー	ON	起動
		OFF	シャットダウン
STEP	パワー出力値	1/128	最低出力1/128 (0.3毎に変化します)
		1/256	最低出力1/256 (0.3毎に変化します)
		1/128(0.1)	最低出力1/128 (0.1毎に変化します)
		1/256(0.1)	最低出力1/256 (0.1毎に変化します)
LIGHT	バックライト点灯時間	12sec	12秒後自動に消灯します
		OFF	ずっと消灯します
		ON	ずっと点灯します
SYNC	シンクロシケット	IN	XProCをトリガーしてフラッシュを発光させます
		OUT	トリガー信号を出力し、他のリモコンとフラッシュをトリガーします
GROUP	グループ	5(A-E)	5グループA-E
		16(O-F)	16グループ(O-F) レシーバ側はスタジオフラッシュである場合、16グループを選択でき、16を選択する時にMレベルだけを選択できます。
LCD	LCDコントラスト	-3+3	コントラスト値は-3~+3の整数を選択できます。
SHOOT		1枚撮影	カメラが撮影する時にM&Multiモードでトリガー信号を送信します。
		複数枚撮影	カメラが撮影する時にパラメーターとトリガー信号を送信します (複数人撮影に適用します)
	APP	APP	カメラが撮影する時にトリガー信号だけを送信します (スマホAPPはフラッシュパラメーターをコントロールします)
DIST	トリガー距離	0-30M	0-30Mトリガー
		1-100M	1-100Mトリガー

## × 対応フラッシュのタイプ

カスタム機能の符号	機能	設定符号	設定と説明	
ID	ワイヤレスID	OFF	シャットダウン	
		01-99	01~99からいずれかの数字を選択できます(この機能は既存フラッシュでまだ使用できません)	
TCM	TCM転換機能 	TT685/V860IIシリーズ	TTLモードにおける発光量はMモードの	
		200j	AD200	パワー出力値に転換します。混用する場合、マスターランプのタイプに準じます。
		360j	AD360II	
		600j	AD600	

### ● 対応フラッシュのタイプ :

下記の表を参照し、カスタム機能を使って設定してください。

トランスミッター	レシーバ	フラッシュ	備考
XProC	--	AD600シリーズ/AD360IIシリーズ/AD200/AD400Pro/V860IIシリーズ/V850II/TT685シリーズ/TT600/TT350C/クイッカーIIシリーズ/QTII/SK IIシリーズ/DP IIシリーズ/GSII	
X1R-C		600EX-RT/580EXII/580EX/430EXII V860C	市販している互換可能なCanonカメラのセットトップランプはおびたしく、一つずつ検証できません。
XTR-16		AD360/AR400	神牛ワイヤレスUSBポート付きのフラッシュトリガーするだけです。
		クイッカーファーストジェネレーションシリーズ/SKファーストジェネレーションシリーズ/DPファーストジェネレーションシリーズ/GT/GSファーストジェネレーションシリーズ スマートフラッシュシリーズ	
XTR-16S		V860C/V850	

\*注: サポートする機能の範囲 : XProCとフラッシュ両方とも有している機能。

## X 対応フラッシュのタイプ

- XTワイヤレスシリーズとX1ワイヤレスシステムとのチャンネル関係：

XT-16 (コードスイッチ)								
X1 (ディスプレイスクリーン)	CH01	CH02	CH03	CH04	CH05	CH06	CH07	CH08
XT-16 (コードスイッチ)								
X1 (ディスプレイスクリーン)	CH09	CH10	CH11	CH12	CH13	CH14	CH15	CH16

## X 対応カメラリスト

- 下記のCanon EOSシリーズのカメラタイプと互換できます。

1Dx Mark II	1Dx	5Ds/5DsR	5DIV	5D Mark III	5D Mark II	5D
7D Mark II	7D	6D	80D	70D	60D	50D
40D	30D	750D/760D	700D	650D	600D	550D
500D	450D	400D Digital	350D DIGITAL	100D	1200D	1000D
1100D	M5	M3				

1. このリストに記載されたのはテストされたカメラのタイプであり、あらゆるCanon EOSシリーズのカメラを含んだものではありません。他のカメラのタイプについて、ユーザーは自分でテストしてください。
2. 弊社は予告なしにこのリストに記載された内容を変更することがあります。
3. 2012年前に発表されたカメラの場合、DグループとEグループはTTLモードを有していません。

## X 仕様

- 仕様

タイプ	XProC
互換可能なカメラ	Canon EOSカメラ (E-TTL II 自動発光) をサポートします。 PC出力ポートを有しているカメラをサポートします。
給電方式	2*AA 電池
露出制御	
TTL自動発光	E-TTL II
マニュアル発光	あり
ストロボ発光	あり
機能	
ハイスピードシンクロ	あり
後帯シンクロ	あり
露出補正	あり、±3の間で1/3毎に変化して調整できます。
露出ロック	あり
補助フォーカス	あり
モデリング発光	トリガーによってフラッシュのモデリング発光を制御できます。
ブザー	トリガーによってフラッシュのブザーを制御できます。
ワイヤレスシャッター	レシーバ側は2.5mmのシンクロポートでカメラの撮影を制御できます。
ZOOM設定	トランスミッターによってフラッシュの焦点距離を調整できます。
TCM機能	TTL撮影値をM出力値に転換させます。
ファームウェア	本体にあるType-C USBポートによってファームウェアアップグレードを行います。
記憶機能	設定されてから2秒後のパラメーターは自動に記憶され、再度起動すると自動に復元します。

## 仕様

タイプ	XProC
ワイヤレス発光	
伝送範囲 (約)	0-100メートル
内蔵ワイヤレス	2.4G周波数
モジュレーション方式	MSK
チャンネル	32個
ワイヤレスID	01-99
グループ	16グループ
その他	
ディスプレイスクリーン	ワイドスクリーン液晶ディスプレイ、バックライト起動またはシャットダウン
フラッシュトリガーサイズ/ネットウエイト	90x58x50mm/80g

- **出荷設定へのリセット**  
中央にある二つの機能ボタンを一緒に2秒押し続け、パネルにRESETが出ると、出荷設定がリセットされたことを示します。
- **ファームウェアアップグレード**  
本製品はUSBポートを通してファームウェアアップグレードを行わせることができます。ソフトウェアに関する最新情報及び説明は公式サイトに発表されます。

- **出荷する時に本製品はUSBアップグレードケーブルを同梱していないため、別に購入してください。** 本製品のUSBポートはType-C USBポートであり、Type-C USBケーブルを使ってください。
- ファームウェアをアップグレードする時に、Godox G2プログラムソフトウェアのサポートが必要であるため、ファームウェアをアップグレードする前に、「Godox G2ファームウェアアップグレードソフトウェア」をダウンロードしてインストールしてから、相応するファームウェアファイルを選んでください。
- ファームウェアをアップグレードした後、取扱説明書は最新電子版に準じてください。

## 注意事項

- 1.正しくトリガーしたり撮影したりすることができなかった場合、電池が正しく装着しているか、フラッシュトリガーの電源を入れているか、フラッシュトリガーが同じチャンネルに設定されているか、接続ケーブルまたはホットシューソケットが正しくしっかりと接続されているか、機能モードが正しく設定されているかを確認してください。
- 2.カメラが撮影できるが、フォーカスできない場合、本体またはレンズはMF（マニュアルフォーカス）に設定されているか否かを確認してください。AF（オートフォーカス）に設定してください。
- 3.フラッシュトリガーは他人の干渉によってトリガーされたり撮影されたりする場合、フラッシュトリガーのチャンネル設定を変更するだけで良いです。

### 神牛2.4Gワイヤレスミスフラッシュの原因及びその対策：

- 1.外部環境2.4G信号干渉(例えばワイヤレスベースステーション、2.4Gwifiルーター、ブルートゥースデバイスなど) フラッシュトリガーのチャンネルCH設定 (+10お勧めします) を調整し、干渉のないチャンネルを探し、または作業中に他の2.4Gデバイスをシャットダウンしてください。
- 2.フラッシュのリサイクルは完了しているか、リサイクルスピードは連続撮影スピードに間に合うか(フラッシュが準備済みで、インジケータが点灯しています)、オーバーヒート保護または他の異常があるかを確認してください。フラッシュの出力値を下げてください。TTLモードである場合、Mモードに変更してください(TTLモードで1回予備発光してみる必要があります)。
- 3.フラッシュトリガーとフラッシュとの距離は近過ぎますか(距離<0.5m)。フラッシュトリガーで「近距離ワイヤレスモード」を起動してください。C.Fn-DISTを0~30mに設定してください。
- 4.フラッシュトリガーとレシーバ側デバイスは低残量状態にありますか。電池を交換してください(フラッシュトリガーの電池について、使い捨ての1.5Vアルカリ電池をおすすめします)。

## フラッシュトリガーの保守

**落下防止：**強いショックまたは振動を受けると、フラッシュトリガーは故障になることがあります。

**乾燥維持：**本製品は防水機能を持っていないため、それを水中に浸したり、湿度の高い環境に置いたりすると、故障になり、内部構造に錆が出て修理不能な損害を受ける可能性があります。

**温度急変防止：**温度の急変、例えば寒い季節に暖かいビルを出入りすることはフラッシュトリガーの内部に結露を起こさせることがあります。温度の急変による結露を避けるため、予めフラッシュトリガーをバッグまたはプラスチック袋に入れてください。

**強磁場から遠く離れること：**ラジオ放送トランスミッターなどのデバイスによる強い静電または強磁場は本製品の正常動作を干渉する可能性があります。